

会社説明会

三桜工業株式会社
(東証プライム: 6584)

登壇者（当社代表）プロフィールのご紹介

本日の登壇者である当社代表の略歴と、3つの特徴をご紹介します。

竹田 玄哉（たけだ げんや）

① 生年月日（年齢） 1978年6月24日（45歳）

② 最終学歴 ノースウェスタン大学大学院
博士課程（宇宙物理学）修了

略歴

2009年2月	当社入社
2012年5月	研究開発部長
2012年6月	取締役
2014年1月	執行役員グローバル開発本部長
2015年6月	専務取締役（代表取締役）
2016年4月	COO（現任）
2016年6月	取締役副社長（代表取締役）
2017年6月	取締役社長（代表取締役）（現任）

③ 家族構成 妻と長男（1歳0か月）

当社代表の3つの特徴

- ① 伝統的な業界の中にあって年齢は40代と若く、業界の常識に囚われない柔軟な発想
- ② 天文学の博士課程という異色の経歴を持ち、理系出身ならではの合理的な思考
- ③ 昨年1児の父となり、社長として育児休業を取得する等ダイバーシティを自ら実践・重視

<育児と社長業の“二刀流”をこなす当社代表>



- **三桜工業について**
- **直近財務**
- **目指す未来**
- **サステナビリティ経営**

三桜工業について

会社の概況（2023年3月31日現在）

商号	三桜工業株式会社(登記社名:三桜工業株式会社)
英文商号	Sanoh Industrial Co., Ltd.
創業年月日	1939年3月24日
資本金	34億8,110万円
従業員数(連結)	7,726名
主要製品	ブレーキチューブ、フューエルチューブ、フューエルインジェクションレール、スチールチューブ製品および樹脂チューブ製品、クイックコネクター、シートベルト用バックル、ショルダーアジャスター、設備等

役員（2023年6月19日現在）

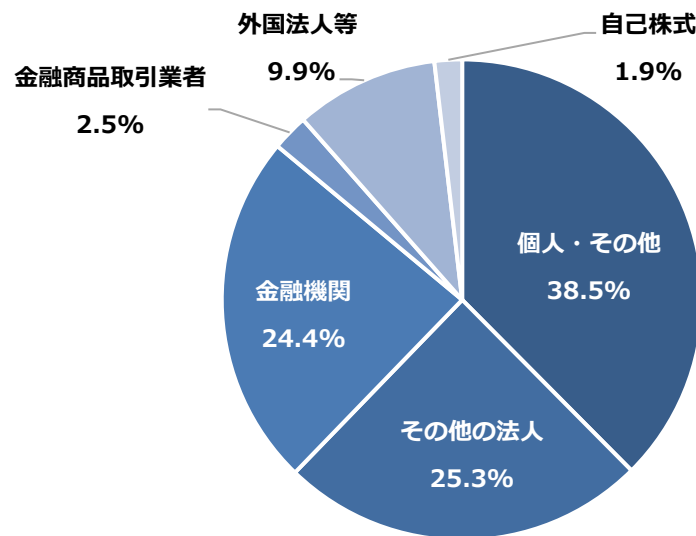
取締役会長	竹田陽三	取締役(社外)	井澤 吉幸
取締役社長	竹田玄哉	取締役(社外)	富岡 さやか
取締役	佐々木宗俊	常勤監査役	三輪はるか
取締役(社外)	森地高文	監査役(社外)	春名孝昭
取締役(社外)	金子素久	監査役(社外)	平石智紀
取締役(社外)	入山章栄		

株式の状況（2023年9月30日現在）

発行可能株式総数	144,848,000株
発行済株式の総数	37,112,000株
株主数	16,680名

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,469	9.53
神鋼商事株式会社	2,212	6.08
本田技研工業株式会社	2,000	5.50
スズキ株式会社	1,600	4.40
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,556	4.28
有限会社竹田コーポレーション	1,500	4.12
株式会社三菱UFJ銀行	1,419	3.90
株式会社常陽銀行	1,243	3.42
アルコニックス株式会社	780	2.14
個人株主	514	1.41

所有者別の株式保有比率（2023年9月30日現在）



ミッション/ビジョン Mission/Vision

私たちのMission（使命）は、ものづくり企業として、製品の提供とグローバルな事業活動を通じて、ステークホルダーの「安全と安心」、「環境保全」のために力を尽くすことです。

Missionを果たしていくために、「人を育て、システムを育て、技術を育て」、創意あるエキスパート集団になることを目指します。

モットー Corporate Motto

経営全領域にわたる絶えざる改革

三桜ウェイ The Sanoh Way

1

**新しい価値を
生みだす**

- ・ Futurity
- ・ Flexibility
- ・ Humanity

2

組織で力を出す

- ・ 責任感
- ・ 三桜マーケットイン
- ・ 自発・自律・迅速

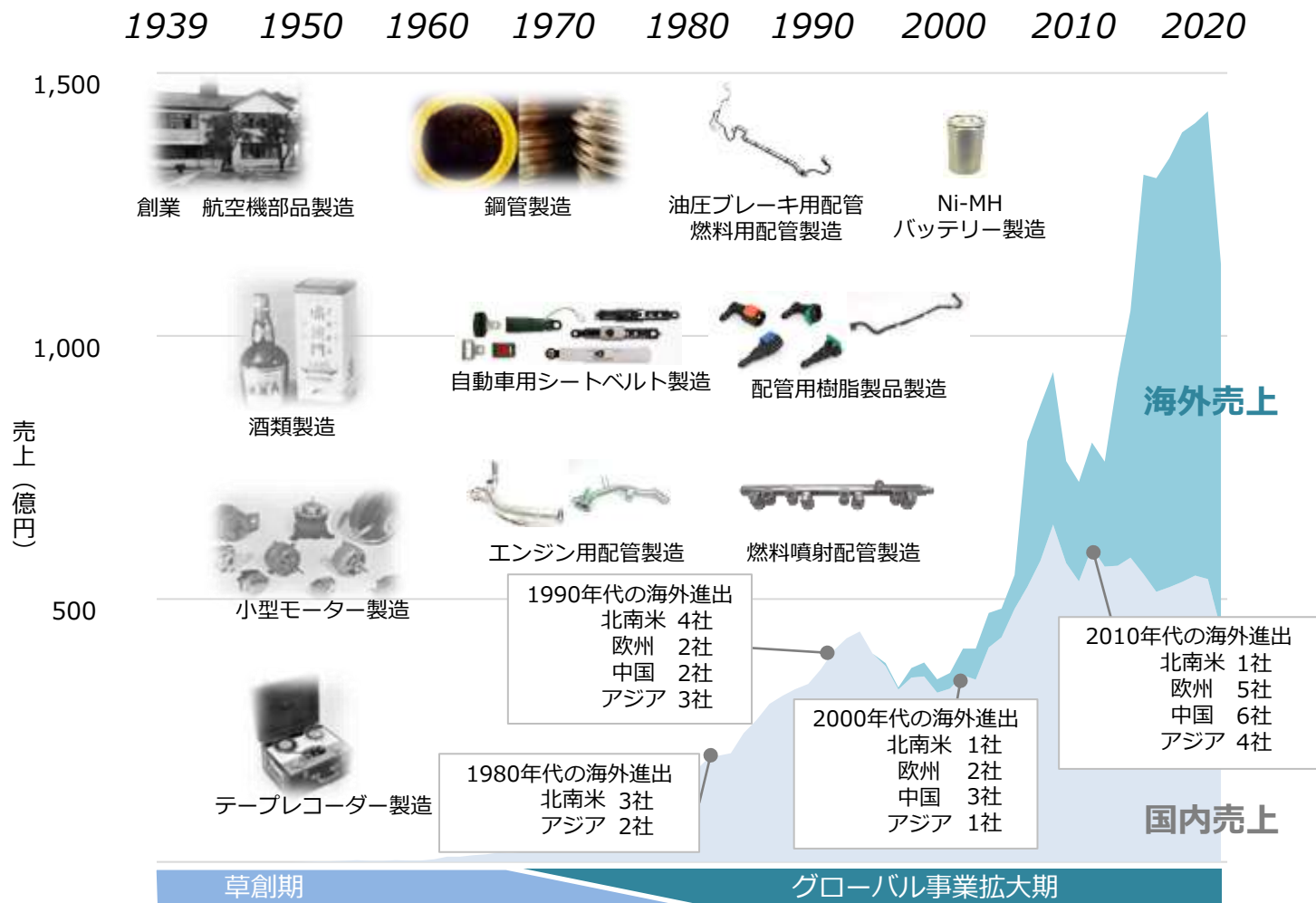
3

高い志を持つ

- ・ 知識 × 意欲
- ・ 手づくり
- ・ チャレンジ

自己変革と多様性が三桜のDNAです。将来の外部環境の変化に備えて、2030年度に向けて事業ポートフォリオの変革に努めてまいります。

連結売上の推移

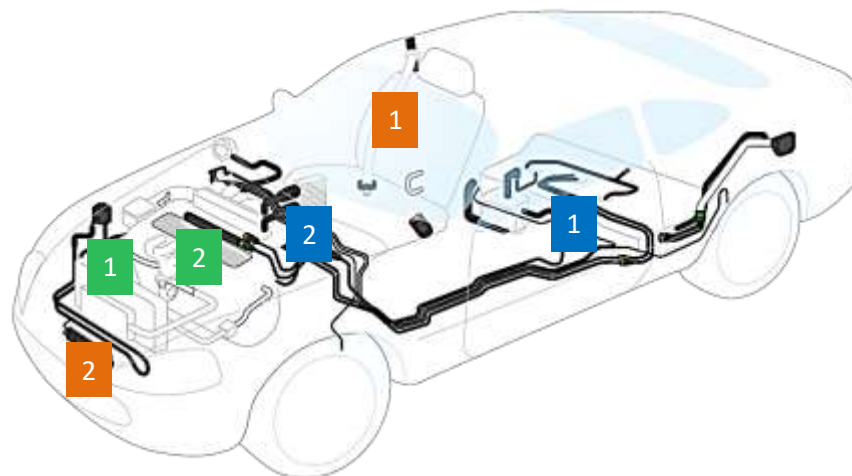


創業
1939年

19カ国
82拠点

連結従業員総数
7,726名

自動車の根幹 【走る／曲がる／止まる】 を担う重要保安部品を提供しています。



1. 燃料配管関連製品



1. 安全関連製品



1. 熱交換関連製品



2. ブレーキ配管関連製品



2. 環境関連製品



2. エンジン関連製品

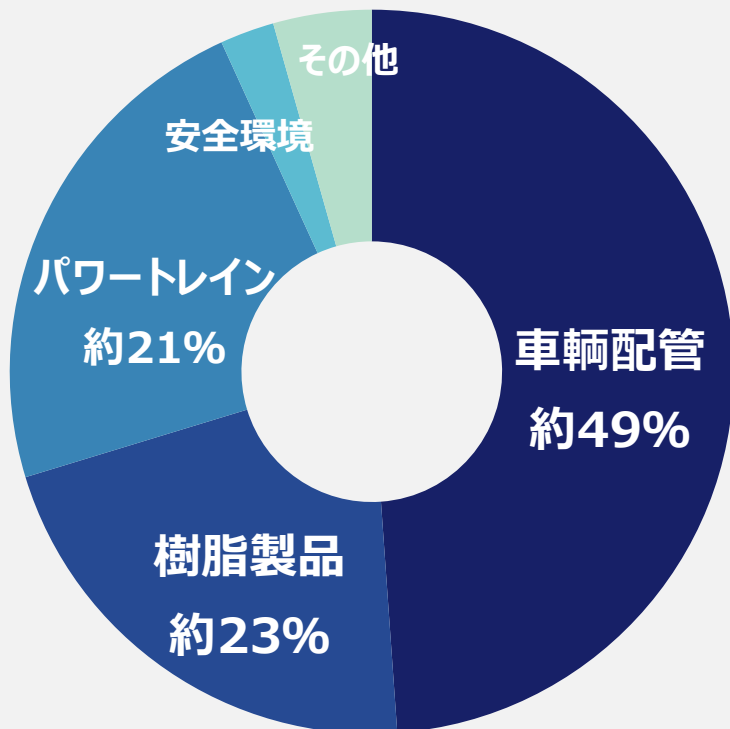


その他



当社の主要製品は車輻配管をはじめとする配管製品が大半を占め、その素材は金属から樹脂まで幅広く取り扱っており、異なる素材を加工し接合する異材接合技術を強みとしています。

売上構成（参考）



ダブル
スチールチューブ



シングル
スチールチューブ



PAコートチューブ



PCコートチューブ



単層樹脂チューブ



多層樹脂チューブ



コンポジット
樹脂チューブ

当社の主要製品である車輻配管は、①鋼材を引き伸ばし（＝伸線）、②引き伸ばした鋼材を管状に成型し、③管状に成型した鋼材に曲げ加工等を施し、④それら複数の管状に成型した鋼材を組み付けて出荷します。

1 鋼材の伸線



2 パイプ加工



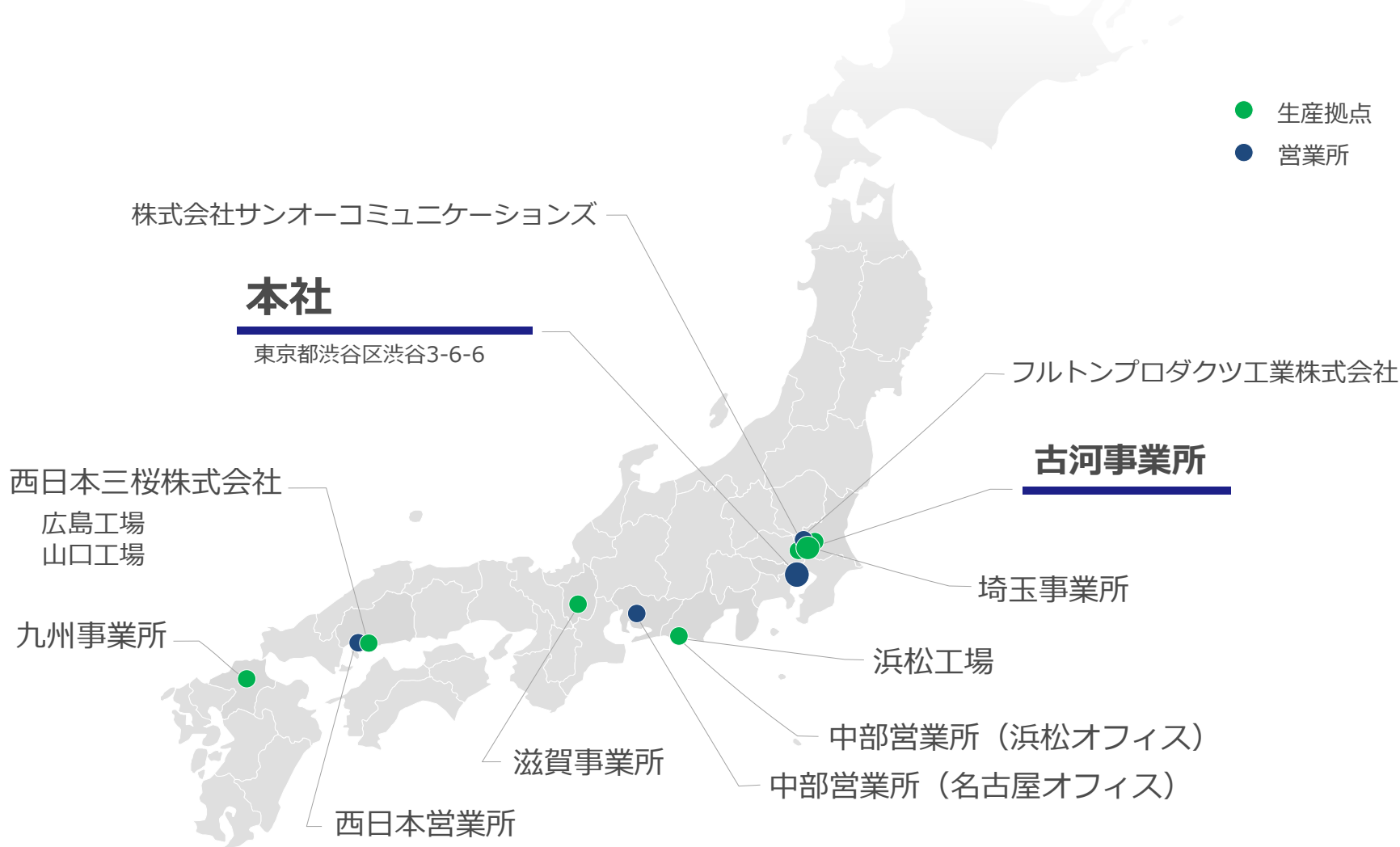
3 曲げ加工



4 組付け・出荷



当社の主要製品の車輻配管の特性から、輸送効率向上のため顧客の工場に近接する形で国内外に工場ネットワークを擁しており、参入障壁の一つとして寄与しています。



Europe

- United Kingdom ■
- France ■
- Hungary ■
- Russia ■
- Germany ■ ■

Asia

- | | | | |
|----------|--|-------------|--|
| Japan | ■ ■ ■ ■ | Indonesia | ■ ■ |
| Thailand | ■ ■ ■ | Philippines | ■ |
| Malaysia | ■ | China | ■ ■ ■ ■ |
| Taiwan | ■ | Vietnam | ■ |
| India | ■ ■ ■ | | |

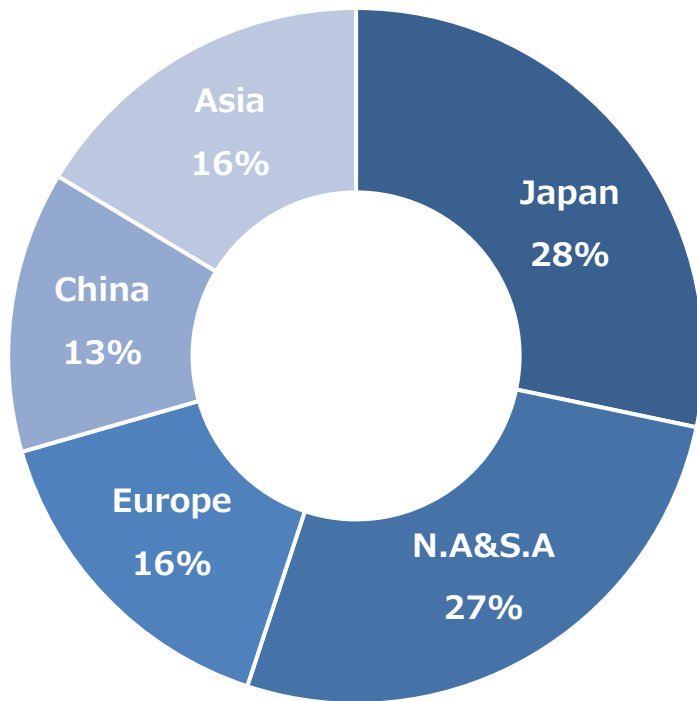
N/S America

- United States ■ ■
- Canada ■
- Mexico ■ ■ ■
- Brazil ■
- Argentina ■

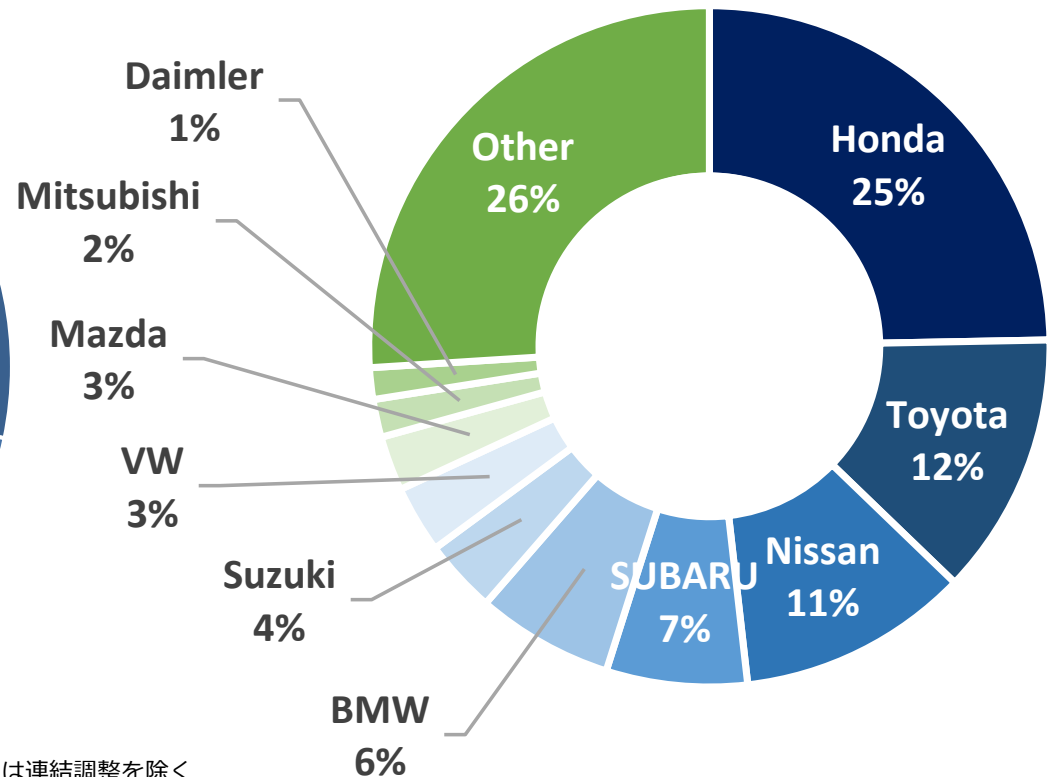
- … 鉄造管
- … 樹脂造管
- … 車輻配管
- … パワートレイン

当社は、特定の自動車メーカーの資本系列に属さない独立系の自動車部品メーカーとして、地域・顧客いずれも偏りなく横断的に事業を展開しています。

Region



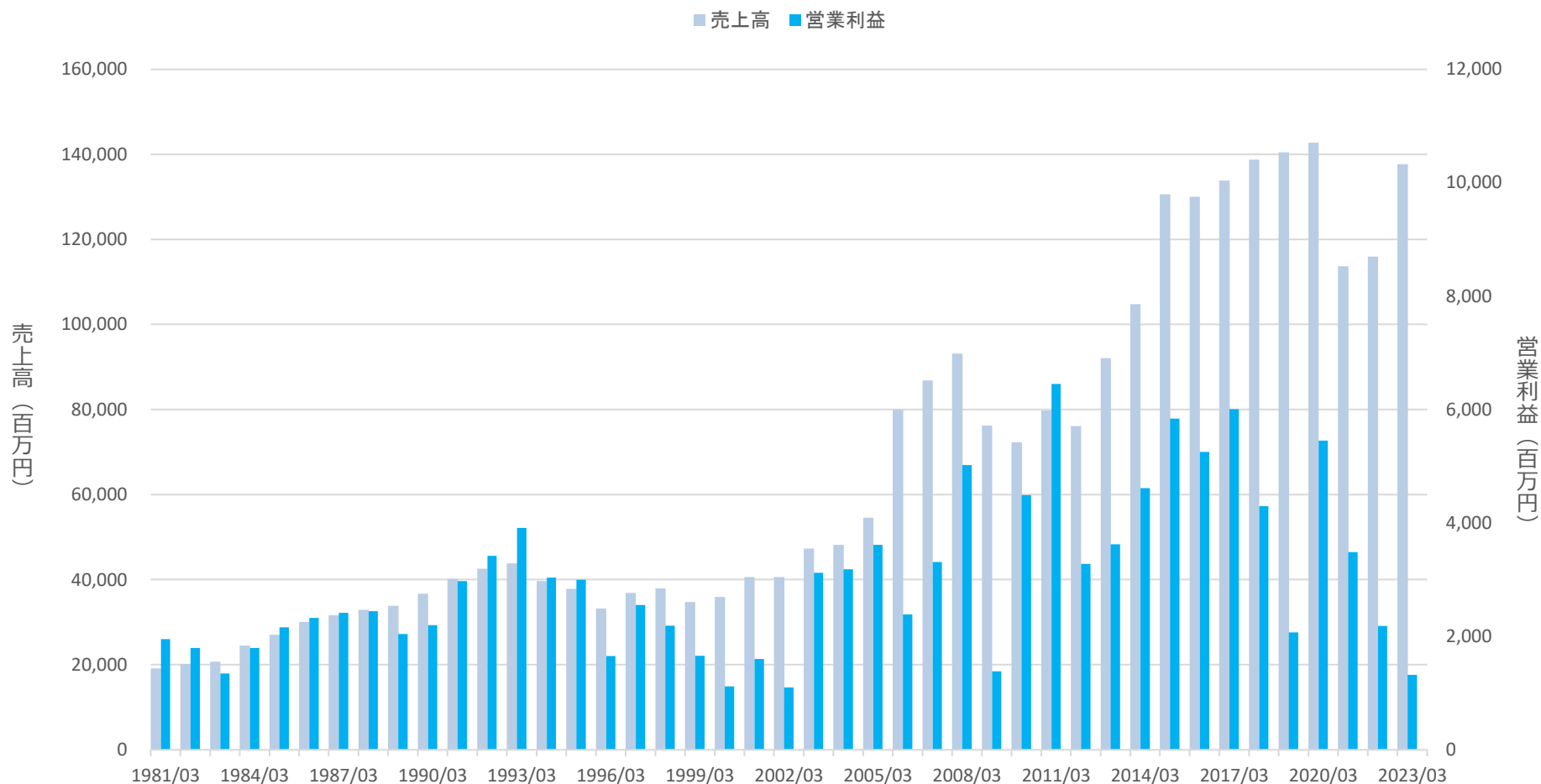
OEM / Tier1



注：2023年3月期末時点。Region別売上高比率の算出に際しては連結調整を除く
N.AはNorth America、S.AはSouth America、VWはVolkswagen

業績推移（グローバル連結）

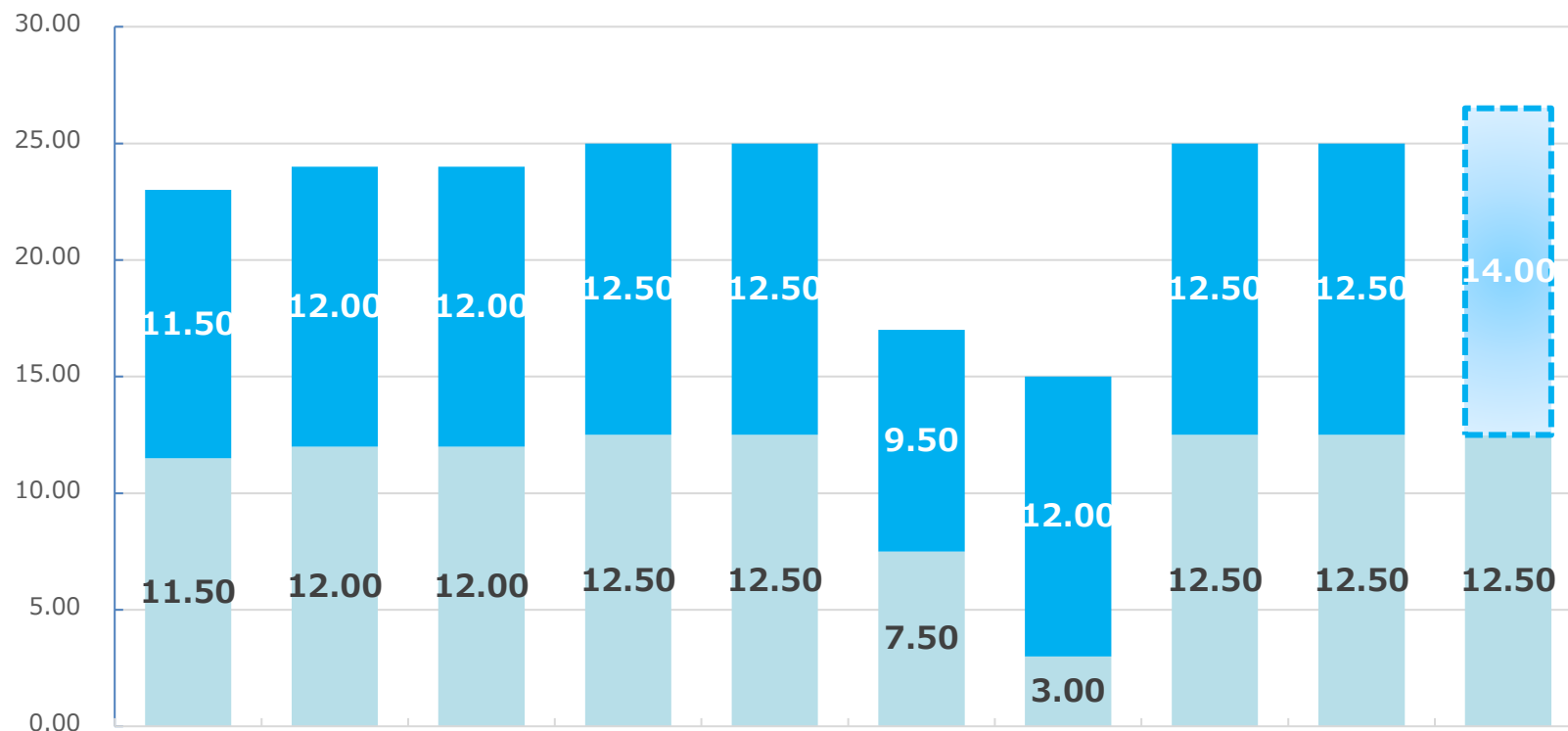
当社の業績は、2000年前後の海外市場の拡大とその取り込みを狙った積極的な海外進出に伴い、足元まで着実に伸ばして参りました。



配当金の推移

配当金は、コロナ禍発生の前後を除いて、安定配当を継続しています。2024年3月期の期末配当予想は、1株当たり12.50円から1.50円へ増配し14.00円の見込みです。

■ 中間 ■ 期末



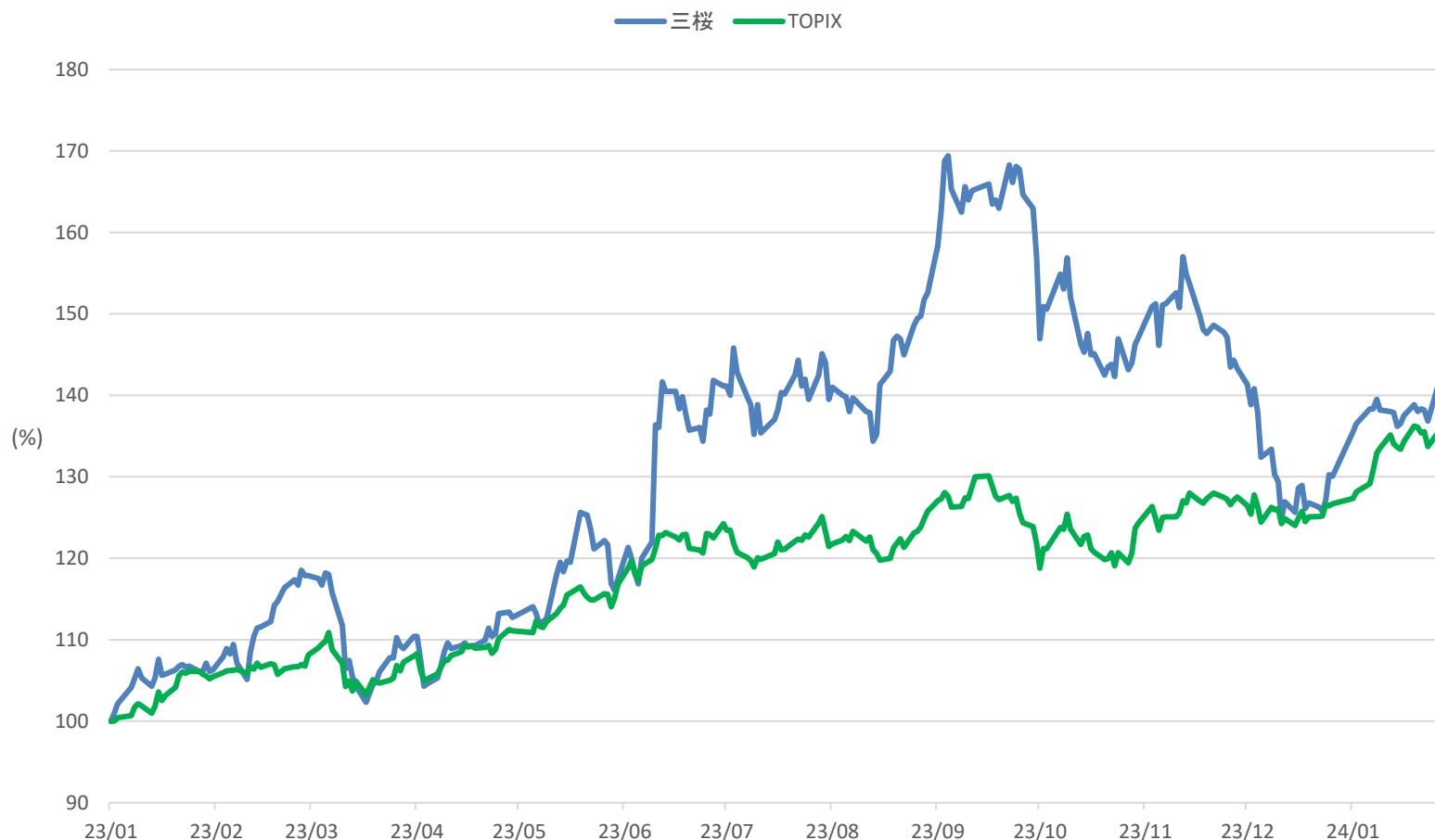
(ご参考) 2015年3月期 2016年3月期 2017年3月期 2018年3月期 2019年3月期 2020年3月期 2021年3月期 2022年3月期 2023年3月期 2024年3月期

配当性向 (%)	53.10	-	81.40	18.40	-	28.40	15.00	89.60	-	23.81
DOE (%)	2.10	2.40	2.60	2.40	2.50	2.00	1.70	2.50	2.40	-

注：配当性向の「-」表記は一株あたり純損失を計上した期。2024年3月期期末配当金14.00円および同配当性向23.81%はいずれも予想。同DOEは現時点では未定につき「-」。

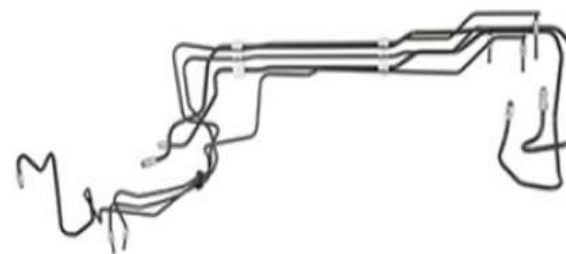
株価の推移（TOPIXとの比較）

当社の株価はこの一年間、一時期市場平均を大きくアウトパフォームする時期もありましたが、足元は市場平均並みの水準にて推移しています。



注：2024年1月31日終値時点。2023年1月4日の終値を「100」としTOPIXと相対化

NISSAN SAKURA / Citroën ë-C3 (ブレーキチューブ)



※インド生産

TOYOTA bZ4X (冷却樹脂配管)



直近財務

2024年3月期 第3四半期 連結損益状況



	2023年3月期 第3四半期 実績		2024年3月期 第3四半期 実績				2024年3月期通期予想 (2/9 公表)	
	金額 (百万円)	売上高比 (%)	金額 (百万円)	売上高比 (%)	対前年同期		金額 (百万円)	達成率 (%)
					増減額 (百万円)	増減率 (%)		
売上高	100,835	100.0	114,709	100.0	+13,874	+ 13.8	155,000	74.0
営業利益	▲278	▲ 0.3	5,499	+ 4.8	+5,777	-	8,000	68.7
経常利益	329	+ 0.3	5,122	+ 4.5	+4,792	+ 1,455.9	7,000	73.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲2,127	▲ 2.1	2,810	+ 2.4	+4,937	-	4,000	70.2

● 2024年3月期 第3四半期業績概要（対前年同期比）

- 売上高: 半導体不足、サプライチェーンの混乱が落ち着いたことによる生産回復及び円安による為替換算影響により増収。
- 営業利益: 原材料価格をはじめ運送費や人件費、エネルギーコスト高騰の影響は継続したものの、価格転嫁及び稼働状況の安定化に伴い採算性が向上し増益。
- 経常利益: 営業利益の増加により+4,792百万円増益。
- 純利益: 損害賠償損失引当金繰入額等の特別損失を計上するも経常利益の増加及び投資有価証券売却益の計上により大幅に増益。

● 為替レート

損益換算レート (単位: 円)	2023年3月期 第3四半期 平均レート	2024年3月期 第3四半期 平均レート	変動率
ドル	128.1	138.1	+8%
ユーロ	136.0	149.6	+10%
メキシコペソ	6.3	7.8	+23%
人民元	19.4	19.6	+1%
インドルピー	1.7	1.7	+1%
タイバーツ	3.7	4.0	+8%
ロシアルーブル	1.9	1.7	▲11%
ブラジルレアル	25.0	27.6	+10%

2024年3月期 第3四半期 連結財務状況：対前期末



連 結		2023年3月期末		2024年3月期 第3四半期			
		実績 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前期末増減額 (百万円)	主な増減要因 (百万円)
資産	流動資産	56,555	58.1	62,331	58.1	+ 5,777	総資産： +9,915 増加 ① 現預金 +911 ② 営業債権 +4,767 ③ 棚卸資産 ▲228 ④ 有形固定資産 +2,934 ⑤ その他投資有価証券 +980
	固定資産	40,725	41.9	44,863	41.9	+ 4,138	
	資産合計	97,280	100.0	107,194	100.0	+ 9,915	
負債	流動負債	39,693	40.8	45,348	42.3	+ 5,654	負債総額： +3,790 増加 ⑥ 営業債務 +2,460 ⑦ 短期借入金 +3,615 ⑧ 未払税金 ▲841 ⑨ 流動負債その他 +1,048 ⑩ 長期借入金 ▲2,789 ⑪ 繰延税金負債（固定） +661
	固定負債	17,675	18.2	15,811	14.8	▲ 1,864	
	負債合計	57,369	59.0	61,159	57.1	+ 3,790	
	純資産合計	39,911	41.0	46,035	42.9	+ 6,124	
負債純資産合計		97,280	100.0	107,194	100.0	+ 9,915	純資産： +6,124 増加 ⑫ 利益剰余金 +1,900 ⑬ 有価証券評価差額金 +709 ⑭ 為替換算調整勘定 +3,856

(注1) D/E レシオ・・・前期末 0.78 → 当四半期末 0.69

(注2) 自己資本比率・・・前期末 37.5 → 当四半期末 39.9

	前期末	当四半期末
①有利子負債	28,660	29,334
②自己資本	36,527	42,726
①/②	0.78	0.69

2024年3月期 通期業績予想及び配当予想の修正



第3四半期実績、最新の業績及び為替レートの状況等を踏まえて通期業績予想及び配当予想を修正

連結	2024年3月期 通期見込 (百万円)		対前回増減	
	前回予想 (2023年11月14日)	今回予想 (2024年2月9日)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	152,000	155,000	+3,000	+2.0%
営業利益 【営業利益率】	5,200 +3.4%	8,000 +5.2%	+2,800	+53.8%
経常利益 【経常利益率】	4,600 +3.0%	7,000 +4.5%	+2,400	+52.2%
当期純利益 * 【当期純利益率】	2,300 +1.5%	4,000 +2.6%	+1,700	+73.9%
一株あたり純利益 (円)	63.84	111.28	+47.44	—
年間配当 (円)	25.0	26.5	+1.50	—

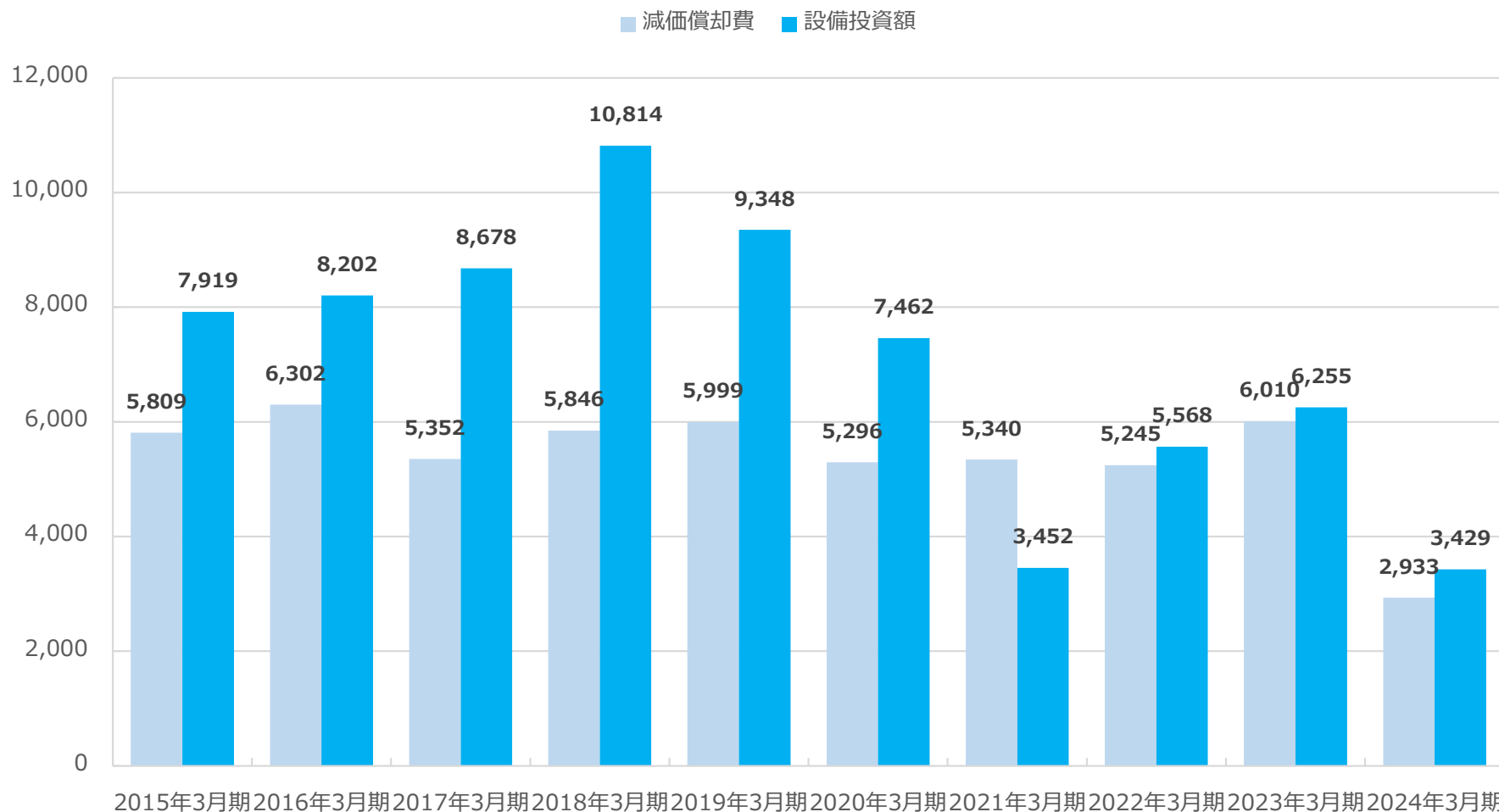
(*) 親会社株主に帰属する当期純利益

通期業績予想の為替前提

為替レート	2024年3月期		増減額 (円)	増減率 (%)
	前回予想 (2023年11月14日)	今回予想 (2024年2月9日)		
米ドル	135.0	138.1	3.1	+2.3%
ユーロ	145.0	149.6	4.6	+3.2%

設備投資額および減価償却費の推移

設備投資額は、コロナ禍を期に一時抑制いたしました。近年は減価償却費相当へ復元。今後は減価償却費を超えて積極的に投資を行う方針です。

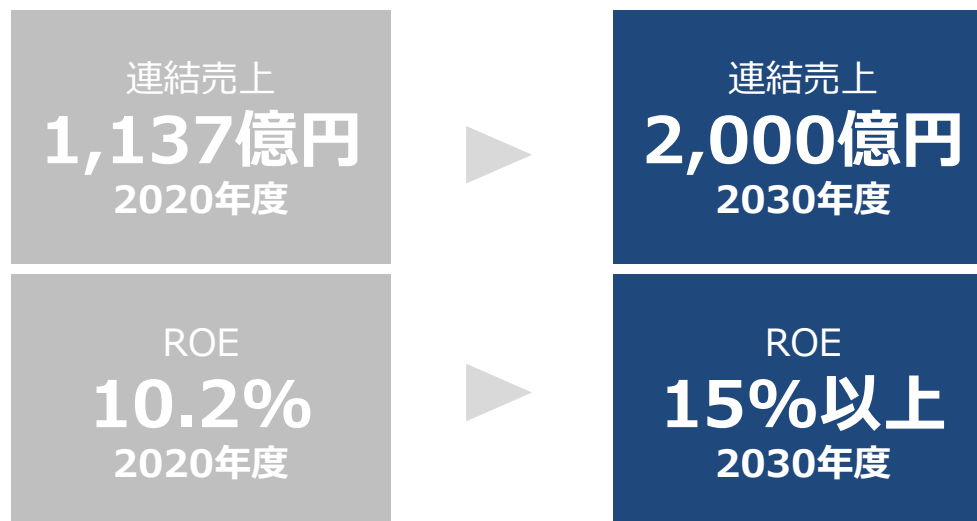


注：2024年3月期は2023年9月末時点

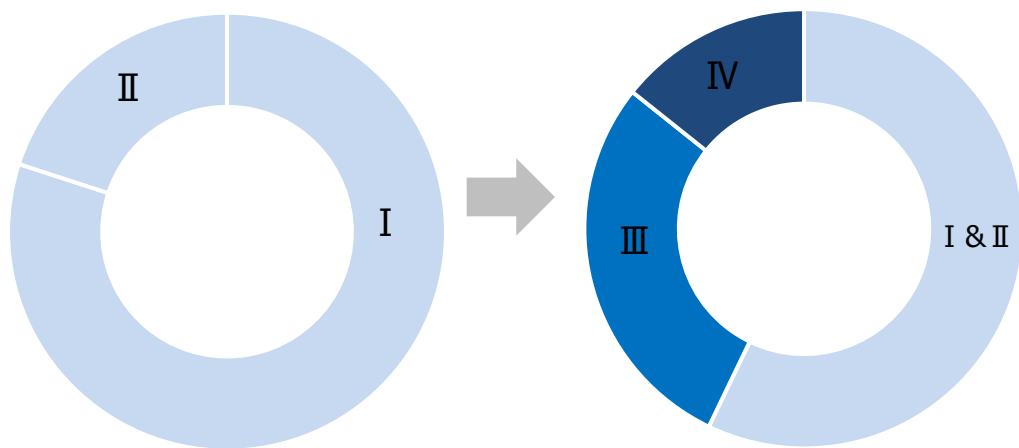
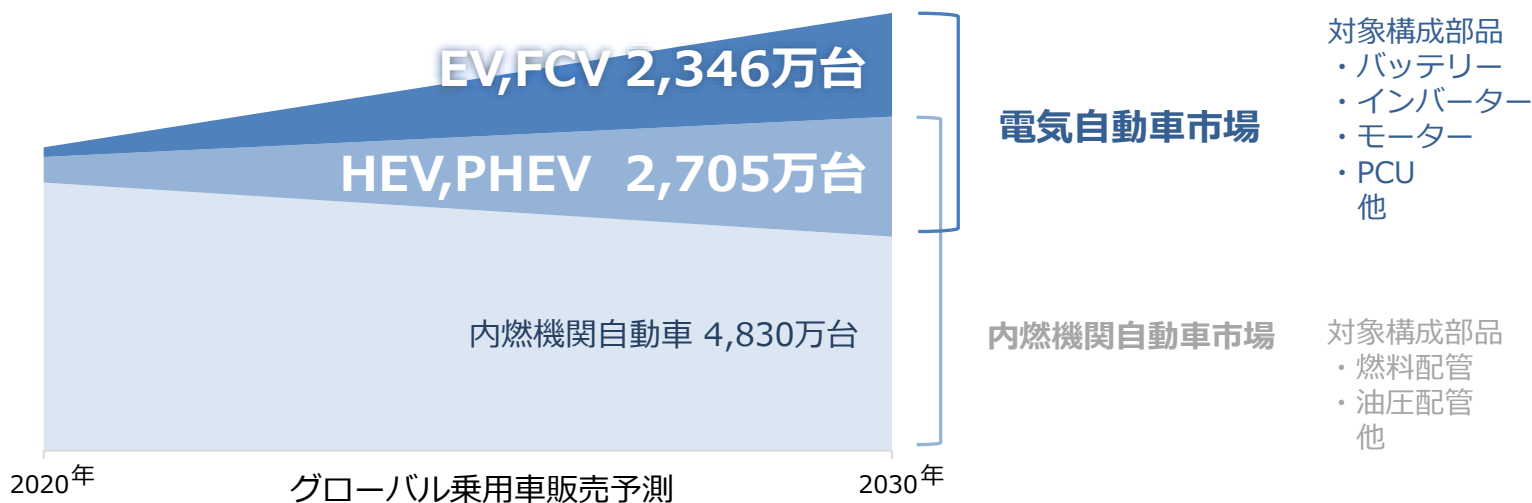
目指す未来

アフター・コロナの世界において、CAGR（年平均成長率）6%の成長を目指します。

中期方針3本の柱	存続する自動車市場において、 圧倒的な高収益・高品質基盤を確立する	既存事業
	サーマル・マネジメントのソリューションにおいて世界の トップ・プレーヤーとなり、環境負荷低減に貢献する	サーマル・ソリューション事業
	自動車事業にとらわれない新事業を創出する 地域経済に貢献する新たな事業を創出する	次世代コア事業



電気自動車構成部品の市場が拡大する中、事業ポートフォリオの変革が求められています。



- I** 既存事業①（内燃機関自動車のみ使用する製品）
- II** 既存事業②（内燃機関自動車とEV,HEV,PHEVで使用する製品）
- III** 既存事業③サーマル・ソリューション事業
- IV** 既存事業④次世代コア事業

DXにより、既存事業の収益率と品質保証レベルを更に高度なものにしていきます。

中期方針3本の柱

存続する自動車市場において、
圧倒的な高収益・高品質基盤を確立する

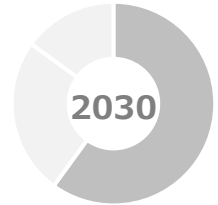
サーマル・マネジメントのソリューションにおいて世界のトップ・プレイヤーとなり、環境負荷低減に貢献する

自動車事業にとらわれない新事業を創出する
地域経済に貢献する新たな事業を創出する

既存事業

サーマル・ソリューション事業

次世代コア事業



I・II 既存事業



既存事業売上

1,200億円

2030年度

既存事業営業利益率

10%以上

2030年度

サーマル・ソリューション事業の拡大(1/2)

自動車向けの樹脂燃料配管および冷却水配管の開発・設計・製造技術に基づいた最適な熱輸送設計と品質保証力を持つ当社の冷却配管システムを、非自動車業界にも展開します。

中期方針3本の柱

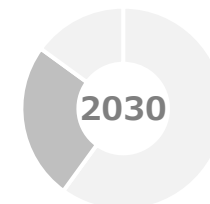
▶ 存続する自動車市場において、圧倒的な高収益・高品質基盤を確立する

▶ サーマル・マネジメントのソリューションにおいて世界のトップ・プレーヤーとなり、環境負荷低減に貢献する

▶ 自動車事業にとらわれない新事業を創出する
地域経済に貢献する新たな事業を創出する

既存事業

サーマル・ソリューション事業



III サーマル・ソリューション事業

次世代コア事業



スーパーコンピューター「富岳」採用製品



トヨタ自動車「bZ4X」採用製品

サーマル・ソリューション事業売上

500億円

2030年度

EV, PHEV, HEV製品売上目標

250億円

HPC冷却製品売上目標

250億円

当社製品は「富岳」に採用、非自動車業界において初の樹脂製品の製品化となりました。今後もデータセンターをはじめとする情報通信産業向け事業等を強化してまいります。

スーパーコンピューター 富岳に採用 マニフォールド



水冷方式に最適

熱源を直接冷やす冷却効率のよい、水冷方式に最適の製品群です。水冷方式は省電力、CO₂削減にもつながります。



オリジナル設計にも対応

自動車部品製造にて確立している金属加工、樹脂成形技術を組み合わせて、各種部品も製作いたします。



適材適所の素材で設計

鉄、ステンレス、アルミ、樹脂、様々な材料から最適な仕様を提案いたします。

今般サーマル・ソリューション事業の注力分野の一つであるデータセンター向けの水冷冷却装置を、日本企業として初めて新規開発しました。

データセンター事業者の課題

今後更なる需要が見込まれるDX、生成AI、メタバース、自動運転には膨大なデータ処理が必要とされ、それに伴う高熱の適切な処理がサーバーのパフォーマンスを担保する上でデータセンター事業者の課題となっている。

リアドア式冷水熱交換器

データセンター内のサーバーラックの背面に取り付けることにより、サーバーから放出される熱を、パイプ構造に水を還流する仕組みで吸収（熱交換）する。水冷冷却は、空冷冷却に比べ熱交換率に優れ、海外のデータセンターでは導入が進んでいる。

同種の装置の開発は当社が本邦初

同種のリアドア式冷水熱交換器の開発は、米国・欧州・中国では既に開発・販売している企業もあるが、日本企業としては当社が初。
（当社調べ）



次世代コア事業の拡大(1/2)

当社のDNAと言える「自己変革と多様性」をキーワードに、自動車事業にとらわれない新事業の創出・拡大に挑戦します。

中期方針3本の柱

▶ 存続する自動車市場において、圧倒的な高収益・高品質基盤を確立する

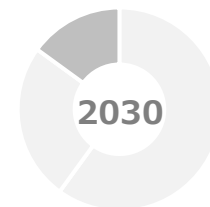
▶ サーマル・マネジメントのソリューションにおいて世界のトップ・プレイヤーとなり、環境負荷低減に貢献する

▶ 自動車事業にとらわれない新事業を創出する
地域経済に貢献する新たな事業を創出する

既存事業

サーマル・ソリューション事業

次世代コア事業



IV 次世代コア事業

次世代コア事業売上

300億円

2030年度

事業開発

研究開発

ベンチャー
投資



2021.7 GaN基板加工サービス開始

事業開発

- 次世代パワー半導体受託基板加工事業
- 地域創生事業
- 製造業向け設備事業



2019.7 新型熱電発電素子の連続発電試験に成功

研究開発

- 新型熱電発電素子
- GaN基板半導体
- 水素生成貯蔵技術



2022.3 プラゴ社に出資

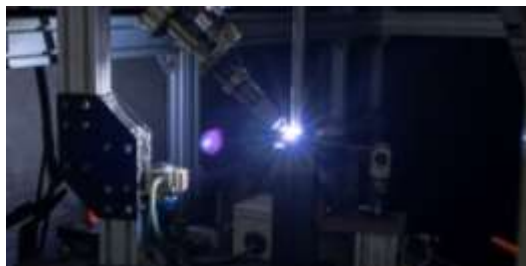
ベンチャー投資

- EV関連事業を手掛ける、株式会社プラゴに出資
- 「自動車産業支援ファンド」に出資

工機部門専用サイトの開設（次世代コア事業の拡大）

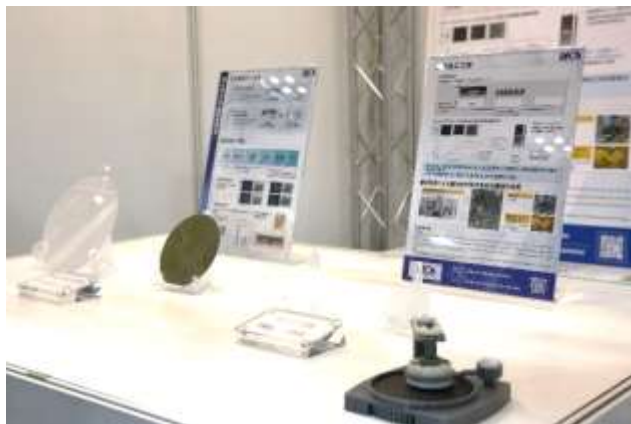
自社内で培ってきた製造設備に関するノウハウを社外に提供していくことを次世代コア事業の一つとしており、工機部門専用のウェブサイトを開設いたしました。

貴社の製造・設備に関する困りごとに
最適な形を提案いたします



受託基板加工事業

国際会議・学会・展示会に積極参加



新型熱電発電素子の開発

製品開発技術展示会でセミナー実施



製造業向け設備事業

専用サイトの開設および各種展示会への出展



地域創生事業

茨城県古河市と地域創生に向けた包括連携をスタート



サステナビリティ経営

自動車産業を取り巻く大きな環境変化を踏まえて、サステナブルな成長を実現するために、「我々は何者か」「我々は何をもって社会に貢献できるのか」「10年後、20年後にどうあるべきか」という問題意識を持ち、マテリアリティとして4つの優先項目を定めました。

マテリアリティ

	ミッションに基づく優先項目	貢献するSDGs	目指す姿
事業活動を通して 解決する社会課題	革新的テクノロジーによる 生産性向上		人命に関わる自動車の『重要保安部品』のものづくり企業として既存事業の技術的深化を図るとともに、知の探索を通じ自社の既存技術にこだわらない次世代コア事業を創出して新たな価値を提供し、次世代自動車等の発展に貢献する。
	環境負荷低減に貢献		環境にやさしい材料の選定、ロスの少ないものづくり、廃棄削減を考慮した製品づくりを推進する。
		自社内での排出量のみでなく、ライフサイクルアセスメント(LCA)での削減を指標の一つとして、省エネ技術開発などを検討、推進する。	
活動を支える 経営基盤	地域社会との共創と成長		三桜のグローバルな生産活動を通じて、各国地域の経済的発展に貢献し、地域社会とともに成長する。 各国地域人財との共創に取り組み、地域の人財と一緒に働ける環境をつくって三桜工業のグローバル事業の持続的成長を実現する。
	働きがいと生きがいの両立		三桜のDNAを受け継ぐ「ものづくり人財」を継続的に輩出していくための「自己変革への教育・育成の場づくり」、「多様な人財の能力や個性を最大限発揮できる職場づくり」などの体制整備によりガバナンスの基盤を構築し、個人、企業、地域の持続的成長と新たな価値創造を促す。

TCFDの枠組に沿った開示ならびに賛同

気候変動に係るリスク及び収益機会が当社の事業活動や収益等に与える影響について、TCFDの枠組みに沿った開示を実施しています。



2023年9月に同提言に賛同しました。

ダイバーシティの推進①（人的資本の充実に向けたプロジェクト）

人的資本経営の観点から、多様な人材がより充実して働くことができるよう「エンゲージメント向上プロジェクト」をスタートしています。

従業員への現状調査を踏まえ、職場環境の改善支援や各種勉強会の企画、介護や男性の育児などライフステージごとの制度説明を含めた情報交換の場づくりなど、さまざまな施策を行っています。

ダイバーシティの推進②（女性役員の登用）

既存の女性役員（常勤監査役）1名に加えて、2023年6月19日の定時株主総会において、新たに女性取締役1名（社外取締役）が就任しました。

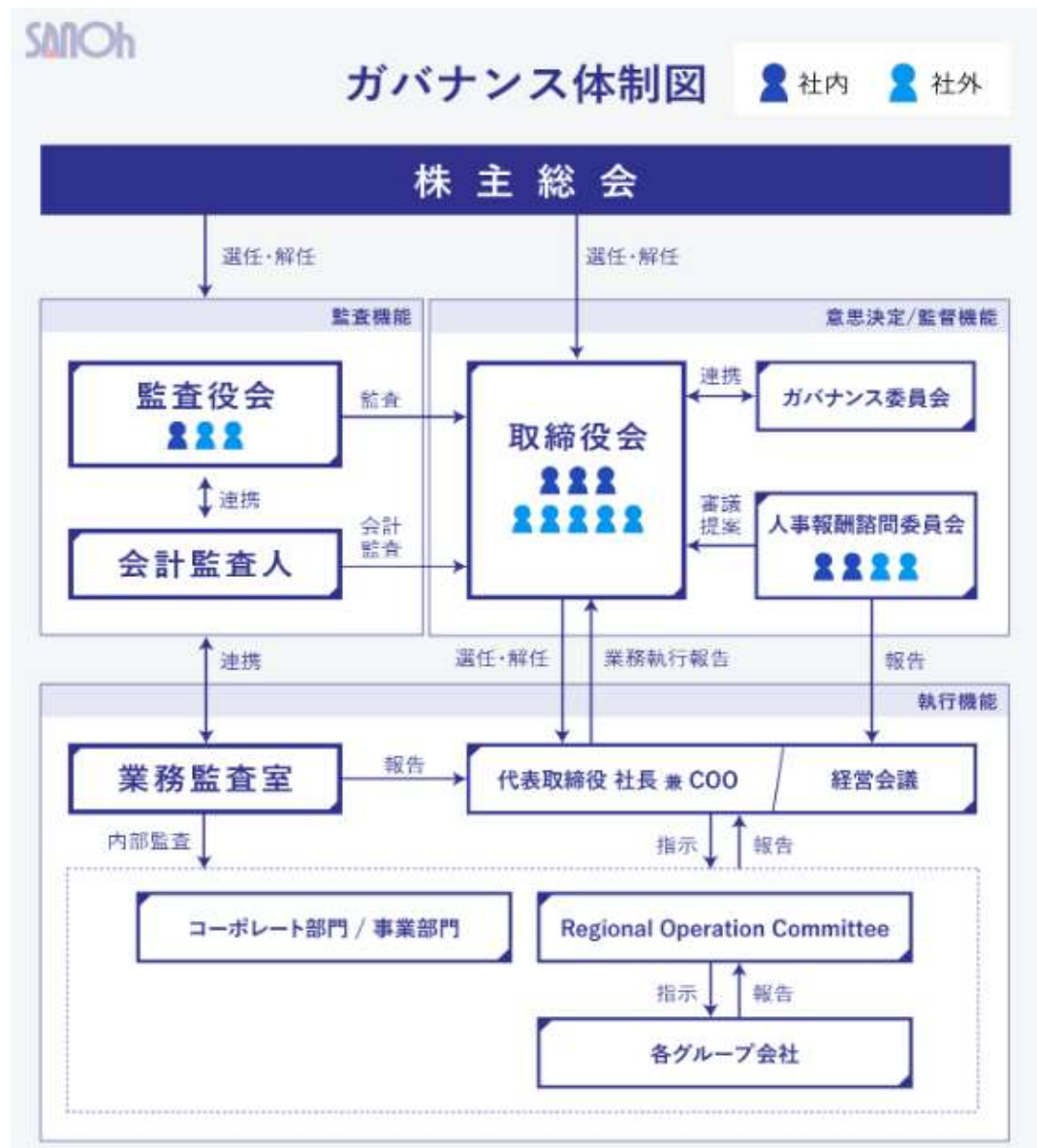
当社は、株主の皆様をはじめとする全てのステークホルダーに対して、透明性の高い効率的な経営を行うために、コーポレート・ガバナンスの充実に努めてまいります。

取締役

- 8名
- うち社外取締役 5名
- 任期1年

監査役

- 3名
- うち社外監査役 2名
- 任期4年



当社は、人事報酬諮問委員会にて取締役候補者の選定を行っております。各事業分野において強みを発揮し、幅広い業務領域を適切に監督するのに相応しい人財の確保に努めております。

役職名	氏名	専門性・経験を発揮できる分野							
		企業経験 (社長経験)	財務会計	業界知見	グローバル ビジネス	IT・DX	営業・ マーケティング	研究開発・ 新規事業	法務・ コンプライア ンス
取締役会長	竹田 陽三	●		●	●		●		●
取締役社長	竹田 玄哉	●		●	●		●	●	●
取締役	佐々木 宗俊		●	●	●		●		●
社外取締役	森地 高文	●	●		●				●
社外取締役	金子 素久	●	●			●		●	
社外取締役	入山 章栄			●	●	●			
社外取締役	井澤 吉幸	●	●		●		●		
社外取締役	富岡さやか		●		●			●	
常勤監査役	三輪 はるか								●
社外監査役	春名 孝昭		●						
社外監査役	平石 智紀	●	●			●		●	

ご清聴ありがとうございました

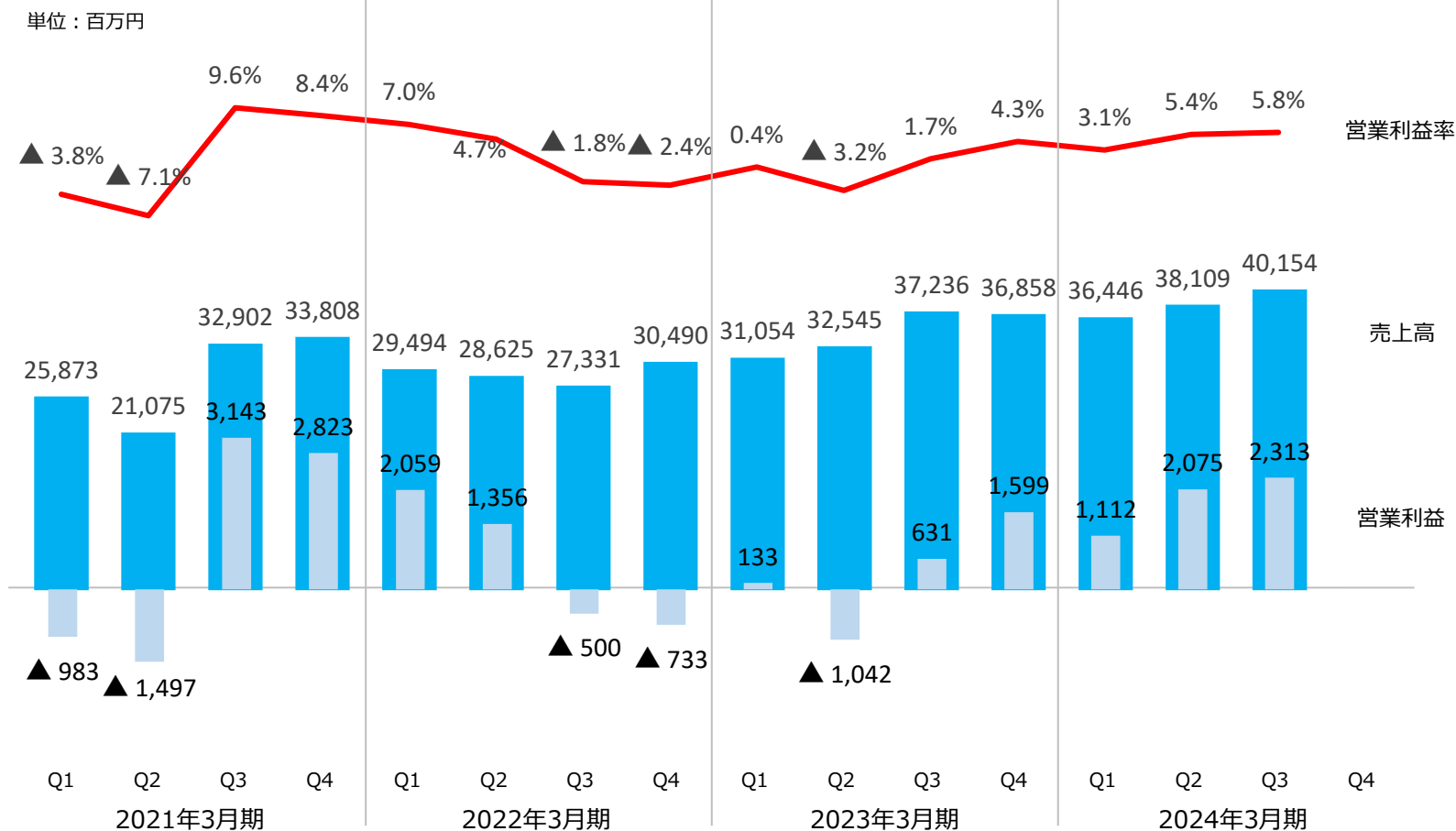
Appendix.

セグメント別四半期業績推移

<連結>



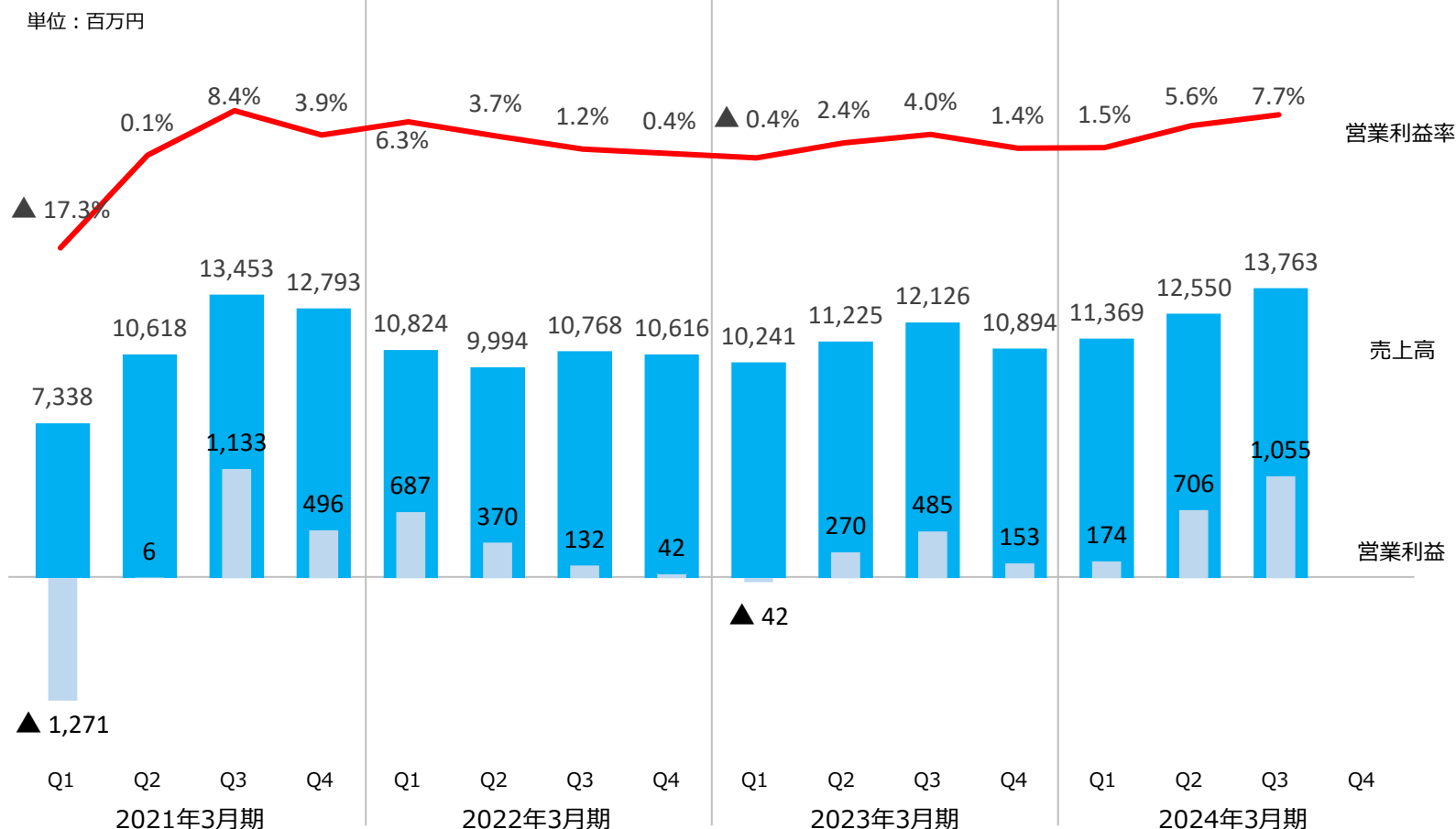
売上高	113,657百万円	売上高	115,940百万円	売上高	137,692百万円	売上高	114,709百万円
営業利益	3,486百万円	営業利益	2,183百万円	営業利益	1,321百万円	営業利益	5,499百万円
営業利益率	3.1%	営業利益率	1.9%	営業利益率	1.0%	営業利益率	4.8%
為替 (円/USD)	106.8円	為替 (円/USD)	109.8円	為替 (円/USD)	131.4円	為替 (円/USD)	138.1円



セグメント別四半期業績推移 <日本>



売上高	44,202百万円	売上高	42,201百万円	売上高	44,485百万円	売上高	37,682百万円
営業利益	364百万円	営業利益	1,230百万円	営業利益	865百万円	営業利益	1,935百万円
営業利益率	0.8%	営業利益率	2.9%	営業利益率	1.9%	営業利益率	5.1%
為替 (円/USD)	106.8円	為替 (円/USD)	109.8円	為替 (円/USD)	131.4円	為替 (円/USD)	138.1円

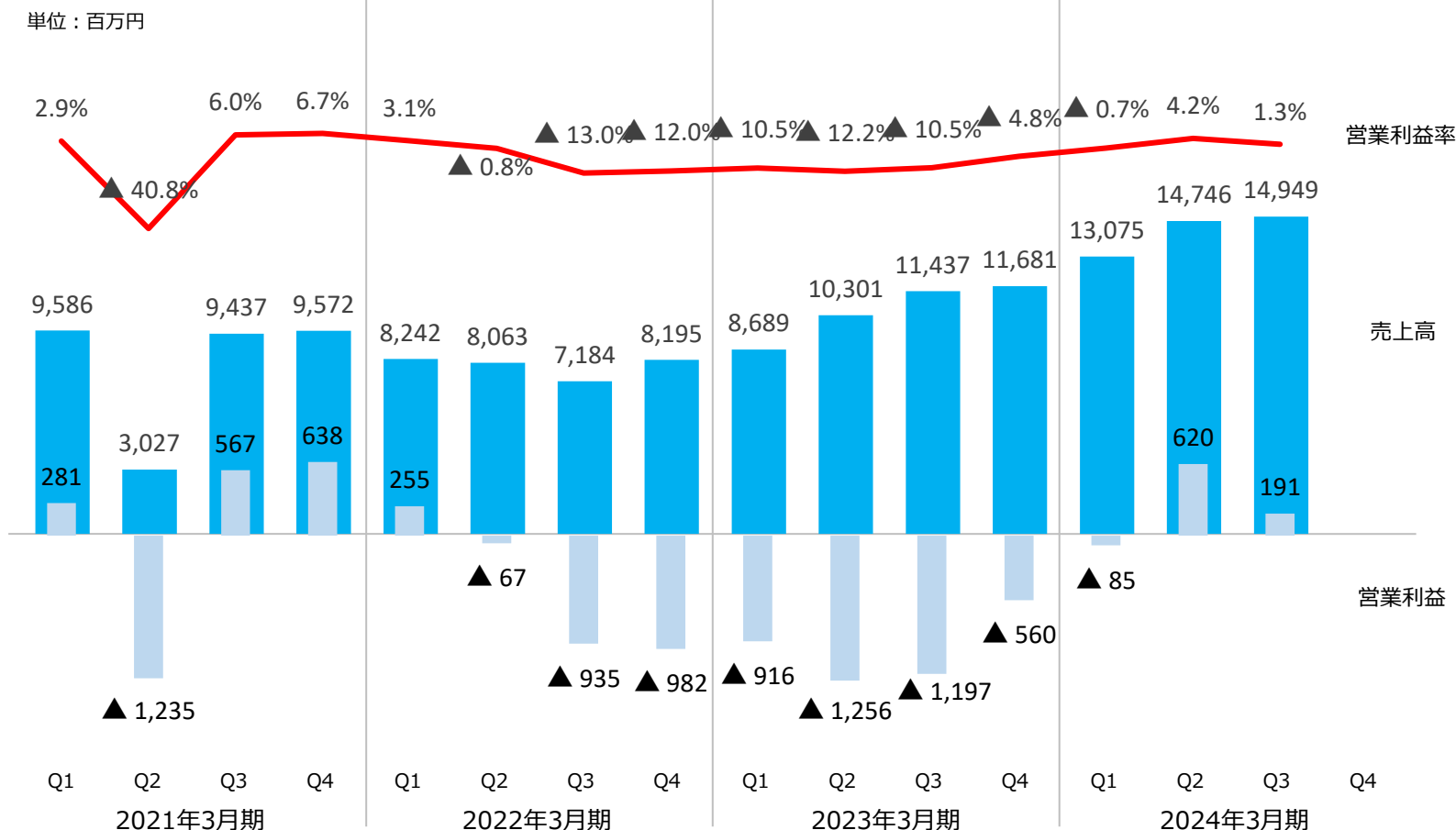


セグメント別四半期業績推移

<北南米>



売上高	31,621百万円	売上高	31,683百万円	売上高	42,107百万円	売上高	42,770百万円
営業利益	251百万円	営業利益	▲1,729百万円	営業利益	▲3,928百万円	営業利益	726百万円
営業利益率	0.8%	営業利益率	▲5.5%	営業利益率	▲9.3%	営業利益率	1.7%
為替 (円/USD)	106.8円	為替 (円/USD)	109.8円	為替 (円/USD)	131.4円	為替 (円/USD)	138.1円



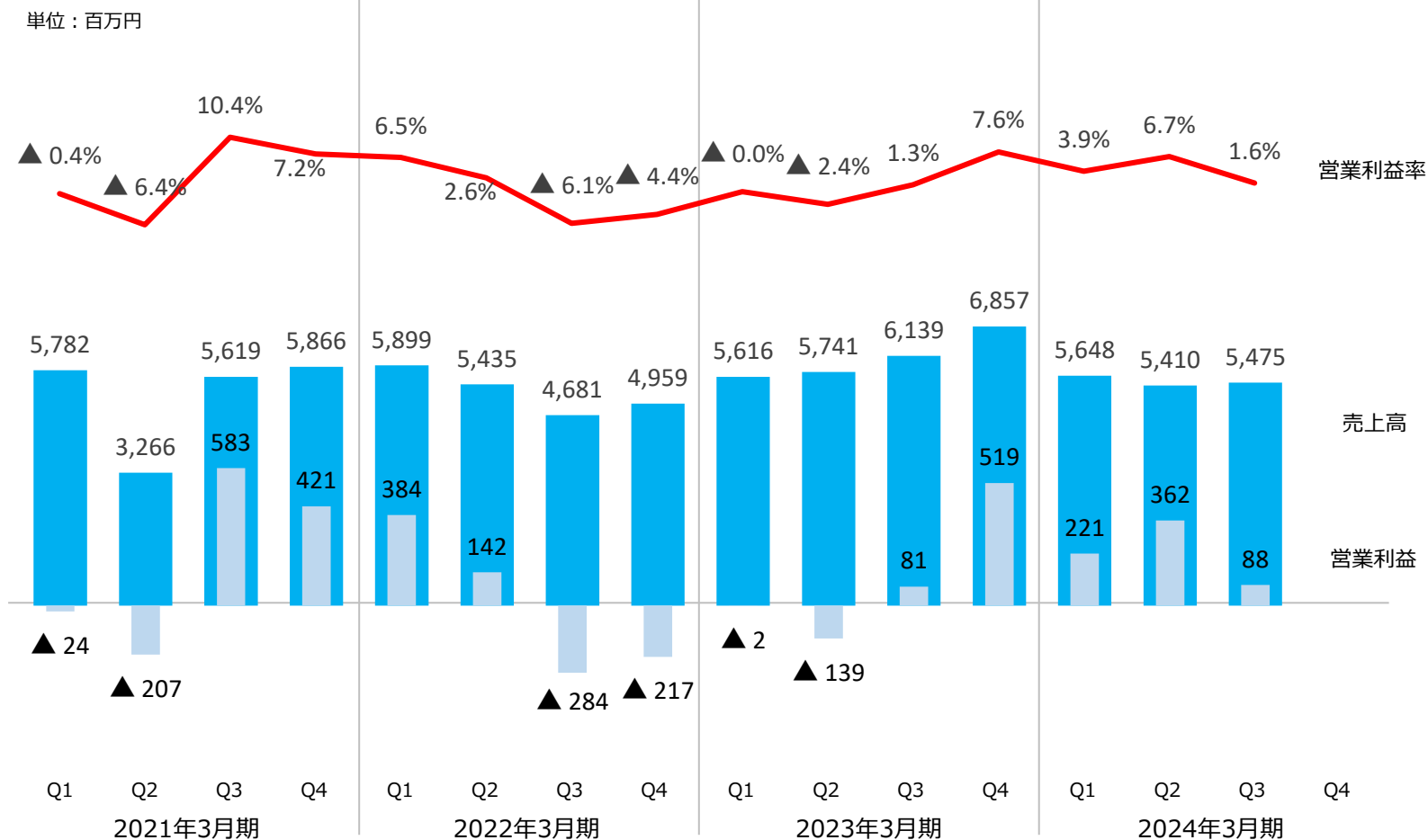
※2024年3月期より、欧州セグメントに含まれていたGeiger USAを北南米セグメントに変更しています。

セグメント別四半期業績推移

<欧州>



売上高	20,533百万円	売上高	20,973百万円	売上高	24,353百万円	売上高	16,533百万円
営業利益	772百万円	営業利益	25百万円	営業利益	460百万円	営業利益	670百万円
営業利益率	3.8%	営業利益率	0.1%	営業利益率	1.9%	営業利益率	4.1%



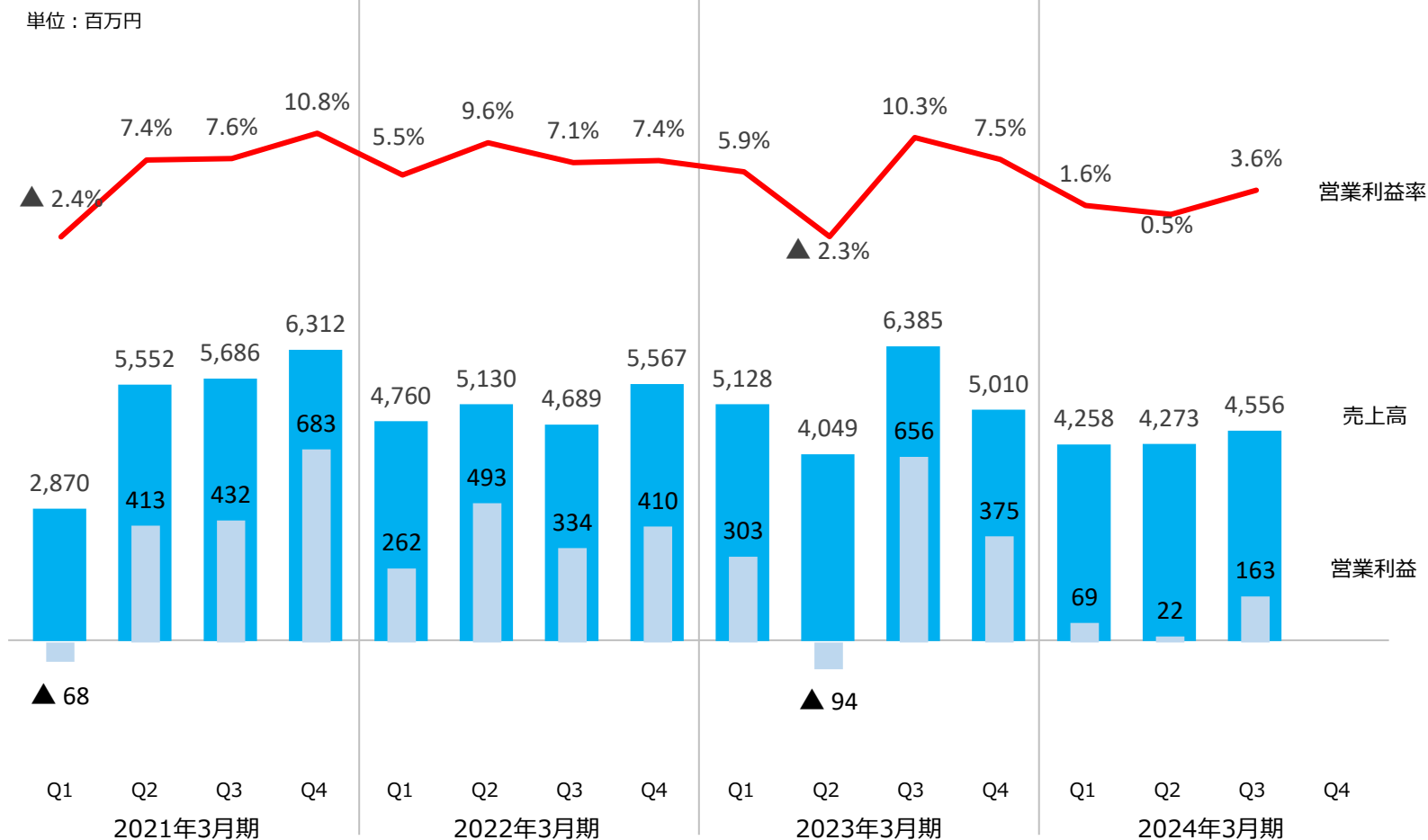
※2024年3月期より、欧州セグメントに含まれていたGeiger USAを北南米セグメントに変更しています。

セグメント別四半期業績推移

<中国>



売上高	20,419百万円	売上高	20,146百万円	売上高	20,572百万円	売上高	13,087百万円
営業利益	1,460百万円	営業利益	1,499百万円	営業利益	1,240百万円	営業利益	254百万円
営業利益率	7.2%	営業利益率	7.4%	営業利益率	6.0%	営業利益率	1.9%

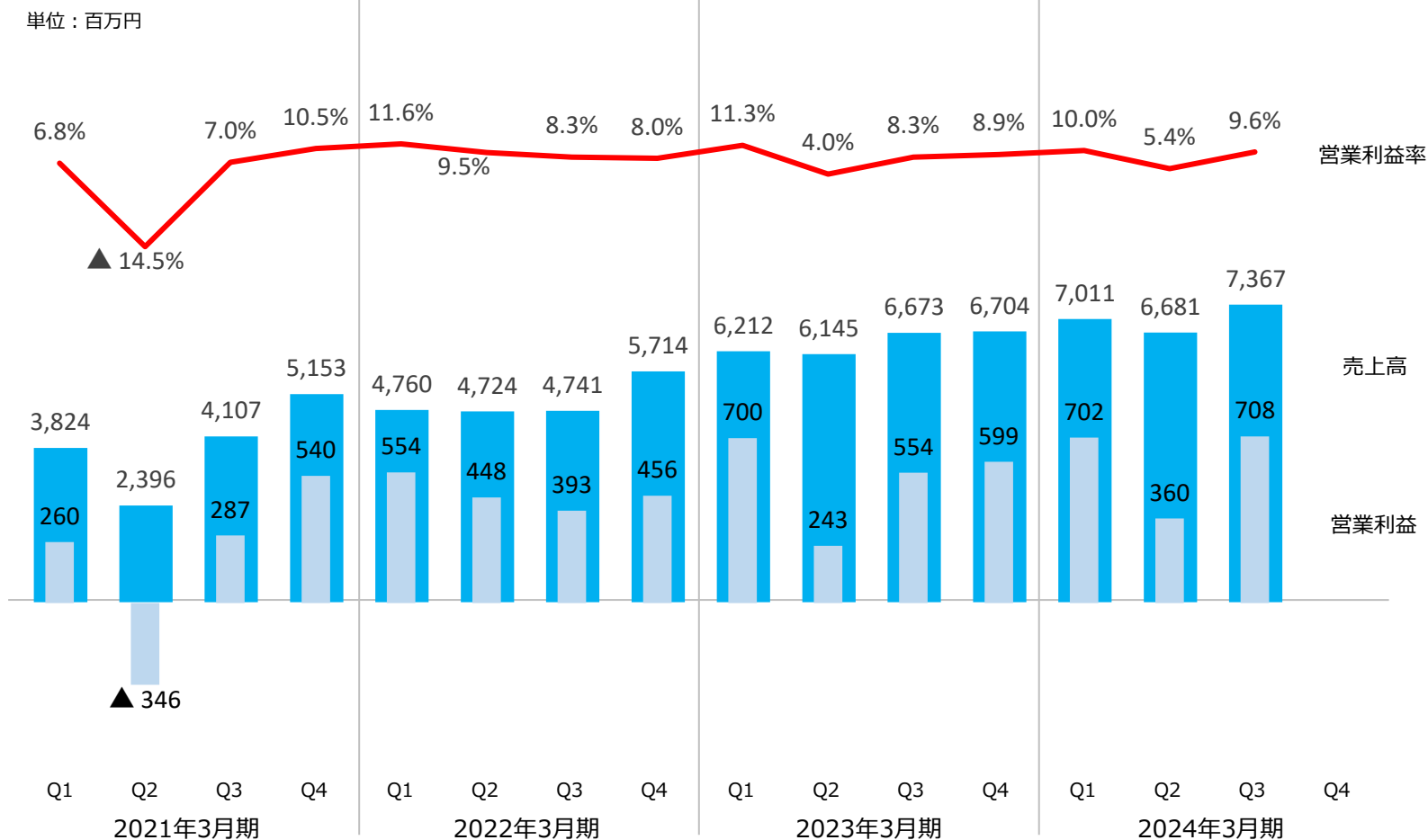


セグメント別四半期業績推移

<アジア>



売上高	15,480百万円	売上高	19,940百万円	売上高	25,735百万円	売上高	21,059百万円
営業利益	740百万円	営業利益	1,851百万円	営業利益	2,096百万円	営業利益	1,769百万円
営業利益率	4.8%	営業利益率	9.3%	営業利益率	8.1%	営業利益率	8.4%



このプレゼンテーションで述べられている三櫻工業株式会社の業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものです。

マクロ経済や当社の関連する業界の動向、新たな技術の進展等によっては、大きく変化する可能性があります。

従いまして、実際の業績等が本プレゼンテーションと異なるリスクや不確実性がありますことをご了承下さい。また、大きな変更がある場合は、その都度発表していく所存です。